

「寿都町の将来に向けた勉強会」（第10回勉強会）開催概要

1. 日 時 2022年8月4日（木）18:30~20:45
2. 場 所 寿都町総合文化センターウィズコム2F会議室
3. 出席者 勉強会メンバー：10名
4. 議 題
 - (1) 北海道電力（株）泊発電所、JAEA 幌延深地層研究センター視察報告
 - (2) 次回以降の進め方ほか

5. 主な内容

- (1) 北海道電力（株）泊発電所、JAEA 幌延深地層研究センター視察報告

■北海道電力（株）泊発電所

<視察参加者の主な感想>

- ・様々な発電所施設があると思うが、原子力発電所が最もセキュリティレベルが高く、安全対策についても徹底していた。とてもよい視察の機会を頂いたと感謝。
- ・再稼働時にはシビアアクシデント発生等における際の応動体制に関する議論が必要だと感じた。

■JAEA 幌延深地層研究センター

<視察参加者の主な感想>

- ・ものすごい施設。あれらの技術が応用されていくのだろうが、研究施設としては完成されていると思った。
- ・瑞浪の研究施設では1日に800トンもの出水があったと聞いた。最終処分場は更に大きく、地下水への施工上の安全対策が課題と感じた。
- ・地下を掘り進んでいけば想定外の事象に直面するということもあり得る。安全・安心と処分事業は長い年月がかかるので、ぜひ多くの町民の理解を得ながら進めていってほしい。
- ・日本では何メートル地下であれば安全なのかといったことや、地震が地下水に与える影響など、まだまだ地層処分について勉強するべきことが多いと感じた。

- (2) 次回以降の進め方ほか

①次回以降の内容

<メンバーからの主な意見>

- ・視察時にメンバー同士で対話の機会があり、地層処分事業への賛成・慎重それぞれの立場や考えがよく分かった。また町の将来を心配することに関しては共通した思いがあることが分かり、新たな発見だった。推進・慎重両方の専門家を招いたシンポジウムよりも、まずは「まちづくり」をテーマにしてメンバー間で話す時間をとってみたい。
- ・最終処分施設は企業誘致のひとつ。施設ができた場合の将来像と、施設がない場合の将来像、

両方の視点でいま何ができるのか、立ち止まって話してみてもどうか。この会の本来の目的「町の将来」について話をしてみるよい機会。

- ・ 全員の前でざっくばらんに意見を述べるのは抵抗があるので、3～4名くらいの小グループに分かれて話をしてみよう。まだ対話したことない方もいるので、全員が話せる時間をもてるように。

→次回は「寿都町をどんな町にしていきたいか？」をテーマとし、2グループ程度に分かれて意見交換を行う。

②次回の日程

- ・ 2022年9月8日（木）（予定）

以上

【参考】意見交換の様子

